

こころのケアの哲学

古事記に示された普遍的エビデンス

森下温美 (関西医療学園)

1. こころのケア

こころのケアとは、阪神淡路大震災以降生まれたわが国オリジナルの心理学的専門用語であり、PTSD 予防を意味する。支援法は見かけ上様々であるが、自己治癒力が作動するようなもの(富永 2011)であればよく、実は心理療法の基本原理と同じ(河合 1979)である。PTSD は驚愕するようなショックを受け、心的外傷化した場合に発症するリスクのあるこころの病であり、自然災害や DV, 虐待を受けた人々には公衆衛生学的に PTSD 予防が必要である。公的 DV シェルターも設立当初は、ジュディス・L・ハーマンの『心的外傷と回復』(1996)などに示されているような PTSD 予防の理念で運営されていた。

2. 間違っただころのケアと薬害の二次被害

ところが、こころのケアの定義が曖昧であることが災いし揺れており、被災地からは「こころのケアお断り」と言う声さえ聴こえてきた。聴こえているうちはよかったのかもしれない。いつの間にかこころのケアと言えば精神科による薬物治療が中心になってしまっており、一方では、増加する自殺やパチンコ依存症などは PTSD 症状ととらえられることなく、その家族は PTSD の負の連鎖による心的被曝で苦しんでいる。まさに平成のドラキュラ伝説(ドラキュラに噛まれるとドラキュラになる)である。

3. 科学的には存在しない EBM (Evidence-based medicine)

PTSD(フロイト型 PTSD を含む)は傾聴によって治癒する。PTSD の対立概念は精神病であるが、決定的な違いは後天的か先天的かである。ドイツ精神医学が最近謝罪したように、精神病には科学的根拠が未だにない。脳波や CT, MRI, PET でも鑑別診断不可能で、向精神薬が単剤で効くというのが唯一の診断基準であるが、残念ながら多剤大量処方蔓延と自殺者増加、米国銃乱射事件のようなアクチベーション・シンドロームが増えただけである。ヒトラーの権力掌握から80年の今年、ベルリン国際映画祭でもユダヤ人大虐殺を記録した『ショーア』が上映されたが、現在の日本はまるでアウシュビツであり、傾聴の意味の再確認は焦眉の問題である。

4. 古事記において象徴的に示されたこころのケアの EBM

古事記のスサノヲが普遍的に日本人のこころを魅了するのはなぜだろうか。河合(1982)や老松(1999)の先行研究があるが、

底流するこころのケアの秘策に関する哲学的原理があると思う。スサノヲは海(普遍的無意識)を護れという父親の命に応じることができず、不適応を起こし退行し解離した。あまりの暴挙にひきこもってしまったアマテラスであるが、神々(全身の神経)が集結している(自己治癒力の作動)のを失意の中にもしつかり確認したので、災い転じて福となし、スサノヲは大蛇退治に成功、結婚して古事記の基礎を造った。父親が妻の喪の作業(PTSD 予防)を頓挫していたので、スサノヲが被曝し、暴れさせられながら(好転反応)、亡き母ではなく凡夫が忌避する集合的無意識に潜む公案の問題に対峙させられ個性化したのであった。後に大国主命もこれを継ぐことになる。

5. 陰陽五行説の太極

スサノヲの父母イザナミとイザナキは、波と風であるから陰陽の比喩にすぎない。父親が鼻を洗ったとき生まれたわけだが、鼻は呼気と吸気を司りつつ、こころと身体、命を繋ぐ重要にして変哲のない器官である。二元論を超えた陰陽五行説の根本原理【一太極二陰陽】の象徴であると考えられる。

6. 日本の靈性に通底する哲学

①『正法眼蔵』 「鼻巴で悟る」「太殺人、人の鼻孔を抜いて直得脱去す。直に恚に捉することを得て始得ならん」と限界状況における転識の法則の要が端的に示されている。

②『崖上のポニョ』 公案「如人千尺懸崖上樹」の駄洒落ながら、父親の諦めた夢に被曝、家出し個性化するのを普通の人々が支援する様子がユーモラスに表現されている。

③皇室の深曾木の儀 ご公務でこころのケアをされる皇室であるが、禊(みそぎ)の儀式では、白黒の基石を置く基盤の上から木を持って飛び降り、再生の哲学を具現化する。

7. 今後の課題

アマテラスの鏡が誤診と薬害に苦しむ因幡の白兔のような兔年生まれの子を皇太子妃を映している。神話である古事記は現在も天皇家に架橋(架空)され、こころのケアに関する犠牲と象徴の変容についてのエビデンスを具現化し続けている。

事例研究との照合作業が大国主命を生む鍵になるだろう。

こころのケア PTSD スサノヲ
モリシタ アツミ